

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800102		
法人名	社会福祉法人 菊寿会		
事業所名	グループホーム 明日葉		
所在地	熊本県山鹿市菊鹿町長529番地		
自己評価作成日	平成23年11月25日	評価結果市町村受理日	平成24年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成23年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山あいの自然豊かな環境の中、昔ながらの生活に近い木造を取り入れた建物と、自然の空気を満喫できるようにと、地中の熱を利用した人に優しい空調を完備し、ご利用者の豊かな生活を送って載きたいと願って開設しました。今まで、在宅生活を送られていたように、ホームでの暮らしの中においても、畑で四季折々の野菜を作ったり、花畑で心癒される花等を育てたり出来る様に、菜園畑と花畑があります。そこで、出来たお野菜等を使って、一緒に料理をしています。また、地域の方々とふれあいサロンで楽しんだり、隣接する施設のご利用者とも交流を行なっています。理念に沿って、ご利用者の方が「自分らしくいきたい」という思いを大切に、スタッフも「ご利用者の笑顔が私の幸せ」となるように、常に心がけて、日常生活等の支援にあたっています。ご家族の方々の協力や地域住民のご協力のもとに、地域の中に出掛けては、四季を楽しんでいます。これからも安心して楽しく暮らして戴ける様に、地域づくり目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人菊寿会の一角に開設されたばかりのホームであるが、一人暮らし等の在宅困難者を優先し、遠方の身内との関係再構築への取組みが何十年かぶりの再会を実現させ、自立支援や残存能力を活かした生活は在宅復帰に繋がる等職員の持つ専門性が発揮されている。周囲は民家も少なく、母体施設との交流や地域での生活拡充に地域サロンや地区の祭り等への参加等様々な機会を作り、個々の特性や個性を尊重し、心身の状況に応じたきめ細やかな支援は入居者の笑顔を引き出し、忘年会の出し物を練習する入居者の真剣な様子は微笑ましくもあり、理念である「らしさ」と「笑顔」をまさに実践し、地域の中で輝いた暮らしの支援に全職員が共通認識で取組んでいる。今回初めての評価であるが、自己評価をきっかけに職員がホームを変えようとするモチベーションアップにつなげており、笑い声の耐えないホームは家族からの信頼度も高く、今後の取組みが楽しみなホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は本体施設の理念と共にホールに掲示しており、常に理念に沿ったケアが出来るか日々スタッフ間で振り返りながら実践に努めている。(明日葉の理念をスタッフのロッカーに貼っており、必ず復唱して、ケアに入っている)	基本理念「地域と共に生き、地域と共に歩み…」と地域密着型としての姿勢を謳い、“個人の尊重、自立支援、地域との共生”の基本方針を具現化し、開設時全職員が実践できる理念を安易な言葉で掲げている。職員は理念に目を通し、唱和することで一日のスタートとし、毎月のミーティングや日々のかかわりの中での振り返り時に理念を想起させ、“らしさ”と“笑顔”を視点に、共に地域の中で輝いた暮らしを大切にしたいケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月のサロンへの参加や、川原区の環境美化作業(毎月1回)も積極的に行っている。また、区独自の祭りや、収穫祭等にも参加し地域住民の方と交流を深めている。	母体の高齢者福祉に隣接して昨年開設したホームは、周囲には民家が少ないという立地条件であり、ホームから外に向かって交流促進に取り組んでいる。地域サロンや地区祭り・収穫祭・保育園での芋ほり等に参加、早朝からの環境美化活動や交通安全マスコット配布に出かける等地域の一員として活動している。区長を通じて地区の決定事項が伝えられ、消防団の夜警もホームに回ってきている。地元の中学生のワークキャンプ受入れ、忘年会には地域住民も参加を呼びかけ、地域での生活基盤作りに積極的に取り組んでいる。	開設してまだ日は浅いが、認知症サポーター養成講座に参加し、地元の中学に出前講座に出向く等認知症ケア啓発へ取り組んでいる。今後も、毎月参加している地域サロン等を活かし、ホームへの訪問を呼びかけ、気軽に立ち寄れる場所となることが期待される。また、認知症ケア啓発の一環として徘徊模擬訓練も検討されており、今後に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、情報の共有や伝達を行っている。また、認知症を正しく理解してもらう事や協力等を得る為に、地元中学校に出向いてサポーター養成も行っている。(地域包括センターと協力)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方より、良い情報を聞く事が出来、外出の機会も増えている。また、家族の思いや、行政からの助言を頂く事で、より良いケアのサービスへと生かすことが出来ている。	開設前からスタートして運営推進会議は市担当者から運営推進会議の役割が説明され、包括支援センター職員の要望により入居者のプランを検討している。民生委員も毎回2名ずつ交代で参加し、認知症サポーターの参加はボランティアとしての訪問につながり、委員からの地域情報は地域住民との交流に繋がり、手作りおやつタイムの雑談にもホームに取り入れたい課題を見出している。また、今回初めての評価結果を踏まえた参加委員との話し合いが検討されている。	メンバー構成や議事録の記載方法の工夫等運営推進会議を通じたサービス向上への取り組みは大いに評価したい。徐々に報告中心になってきており、事前に課題を提示したり、地域を交えた防災訓練等も話が出ており、防災訓練等を組入れる等更なる工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、情報交換を行っている。また、市の運営推進委員の方々も年1回訪問して頂き、ホームの活動を知って頂いたり、助言を頂いたりしている。	管理者は市の策定委員として行政とかかわり、毎回の運営推進会議での参加時情報交換、又、市の運営推進委員の訪問もありホームの現状を発信している。また、市からの依頼により運営推進会議に民生委員の交代による2名の参加を受入れている。	行政との関係強化のために外部評価結果提出時に情報を発信したり、情報交換に取組まれることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し、「絶対に拘束をしないケア」を前提に、「絶対にしない・行わない」ケアの実践をしている。	重要事項に自由を制限するような身体拘束を行わないことを謳い、研修に参加し認識を深めている。言葉での抑制も無く「だめよ」などの言葉等を使わないよう意識を持ったケアに取組み、行動の把握と所在確認の徹底により安全確保に努め、外出傾向や帰宅願望等に時には一緒に付き添って外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一人ひとりが自覚を持ち、意見交換を行い、常に意識をし「虐待防止」に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、参加出来なかったスタッフに対しても、研修復命の資料等による伝達を行い、学ぶ機会を持っている。(成年後見制度については利用者1名が活用している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書及び契約書を用いて、利用者及び家族に説明をしている。理解を頂いた上で同意書を得ている。解約時においても、十分な時間を取り、家族の不安や思いをしっかりと受け止めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とスタッフ間の信頼関係を作り、気兼ねなくお話し頂けるようにしている。また、意見や要望が出た時には、スタッフ間でしっかり検討している。出来る内容は即、ケアに生かしている。	職員は日々入居者とのコミュニケーションに心がけ、傾聴や寄添いのケアに取り組み、要望に応じて時には利用者と話し合いを行っている。(例:テーブルの座席位置等)家族の意見や要望を聞く機会を訪問時と捉え、気軽に意見等を言えるようコミュニケーションを図っており、信頼関係を築いている。また、些細なことでも申し出てほしいと意見箱とアンケート用紙が設置されている。家族会も発足し、農園作業への参加等協力的であり、今後も家族会を通じた意見や要望をホーム運営に活かされることが大いに期待できる。	理念である笑顔での生活の様子を掲示された多くの写真より窺うことができる。ホーム独自の広報誌の作成を検討され、家族への報告や地域への啓発の一環として活かされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回スタッフ全員集まって会議を行う中で、意見や提案を出している。また、スタッフ専用の連絡ノートを活用して提案等が早くケアに繋がるようにしている。年2回は個人面接を行い、個人的な意見を十分に聞く機会を設けている。	月2回のスタッフ会議や申し送りノート、連絡ノートを通じて職員の意見や要望を話し合い、居室の入れ替え、安眠対策用にフットバスの購入等職員の観察力や気づきを具体的に反映させている。また、幹部会議での話し合いの結果は職員会議で周知を図っている。管理者との個別面談により個々の意見や要望等を聞き、半年毎に目標と行動規範が評価されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を取り入れており、年度を上期・下期に分けて、自分の目標を設定し、日々のケアが目標達成出切る様に支援している。また、面接にて話し合い、その結果を給与や賞与に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの希望する研修には出来るだけ参加出来るように配慮している。また、能力に応じては研修の促しも行い、個人の能力に応じた資格取得ができる様に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本・菊池広域の連絡協議会に加入しており、研修や情報交換が行われている。その時に参加したスタッフが情報等についてスタッフ間で検討を行いケアに生かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から出きるだけ詳しく聞き取りを行い、本人の不安がないようにスタッフ全員が現状の把握に努め、理解を深めてケアを行っている。また、それが安心した暮らしに繋がるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当時より家族に生活の状況を伝える事で、家族の心配・不安の軽減に努めている。また、事前に家族の思い等を聞き、日々のケアに生かす事で家族との信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が一番必要としているものは何かを良く聞いて、サービス内容について家族と相談し、思いを受止めながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力を早く知ることにより、利用者自身が出来る事の中から沢山教えて頂く事もあり、お互いに尊重することにより共に暮らす関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係に深く入り込まない思いを保ちながら、家族と共通の思いで本人を支援出来るように情報伝達を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでに関わってこられた方や、地域との関係が維持出来る様に、手紙を出したり、外出の機会に訪問したり、家族の協力を得ながら、できるだけ馴染みの関係を継続している。	家族や親類、教え子等の訪問、地域の行事・祭り見学、美容室の継続、早朝から神様参りされる方やこの場所そのものが生まれ育った地である方等なじみの人・場所・習慣等の関係継続に取り組んでいる。遠方の家族が交代で訪問される方や関係の再構築に積極的に関わり職員が身内との手紙の交換により何十年ぶりの再会を果たした方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの思いを理解し、一人ひとりの性格や個性を把握して、利用者同士がお互いに支え合える様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や、退去されても、家族と連絡を取り、会いに行ったりして、状況の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをしっかりと受け止めて、日常生活の様々な活動の中で本人の思いに添った支援が出来るように、日々検討している。	入居者の言動や行動を把握し個々の思いを気づき、意思を尊重しながら笑顔での生活を支援している。本人の“したい”との思いを受け止め、外出支援に反映させたり、時には選択肢を分かりやすく伝え、本人本位となるよう職員同士検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当されていたケアマネジャーそして知人からも可能な限り情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から心身の状態を観察し、本人に合った活動が出来るように利用者に生活一覧表を作成。スタッフで共有し、ケアに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態をアセスメント(ケアチェック表)により表記して、スタッフ間でケースカンファレンスを開き、家族の意向も取り入れている。また、運営推進会議でも検討し、アドバイスを受けたことをケアに繋げている。	アセスメントにより個々の状況を把握し、月1回のモニタリングと半年毎のモニタリングを行っている。家族は訪問時に満足度を把握し、ケア記録を見ながらプランを説明している。また、プランをカードックスに添付と共にホワイトボードに全入居者の24時間シートを記載し全職員の共有化としている。運営推進会議の中でも毎回プランを開示し検討している。	今後、更に長期目標にあわせたモニタリングや介護保険更新時にあわせたケアチェック、及びカンファレンスには家族の思いも取り入れ、現状に即したプランになることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録簿に生活の様子やケアの内容・変化のあった事等を克明に記録している。また、申し送りノートを活用して、スタッフ間の情報共有につとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方より帰省され、「本人と一緒に過ごしたい」と希望された時に一週間程ホーム内で過ごされた(宿泊) また、近くの宿泊施設や交通手段等も便宜を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの協力で出かけたり、地区のサロンでの交流、また収穫祭や保育園の催し等に参加して楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意思を尊重し、入所後のかかりつけ医をきめている。主治医を変更される場合は、医療を継続して受けられるように情報の伝達・共有を行っている。	入居前からのかかりつけ医の継続や、協力医への変更など本人・家族の希望に応じ支援している。受診は家族対応を基本としているが状況によってホームでも柔軟に対応し、健康チェック記録に重要項目を朱記したり、ケア記録に主治医との相談を記すなど情報の共有に努めている。協力歯科の往診を取り入れ、個々に応じた受診を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化が有る場合は、看護師(介護兼務)や家族・主治医に相談して対応している。また、緊急な場合は隣接する施設母体の看護師の協力を得ることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、面会を密に行い本人の不安の軽減や、家族と連絡を密に行い、情報を共有しながら退院が出来られるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、本人・家族の思いを受け止めて、出来る限りの支援(見取り)を行いたい。が、症状によっては限界が考えられる為に、その状況に応じて本人・家族と十分に話し合いを行う。	家族の希望でホームでできる支援に努めており、家族との繰り返しの話し合いが行われている。症状により医療中心となった場合の対応の難しさを含め家族と繰り返し話し合い、ホームで出来る範囲で支援したケースもある。	まだ開設した1年が過ぎたばかりではあるが高齢化は否めず、重度化や看取り指針等ホームで出来ること・出来ないことを明文化し、今後も家族との繰り返しの話し合い等具体的な状況に備えていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて知識や技術について学んでいる。また、急変時についても、かかりつけ医よりの研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する施設本体の訓練に参加しているも、当施設事態の訓練が行われていない為に、運営推進会議での助言のもとに、実施予定である。	法人と合同の訓練を実施し、夜間連絡網の召集訓練などが行われている。地域消防団の夜警が回ってきており、運営推進会議の中で地域の協力をお願いしている。食品を備蓄し、防災の日に食している。	ホーム独自の訓練を計画中であり、地域を取り込んだ訓練を検討し、今後も更に地域と連携した取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活のケアにおいて、本人一人ひとりのこえ掛けや対応で傷つけないように気を付けている。また、スタッフ間においても、お互いに助言をしながら質の向上に努めている。	基本方針に「個人の尊重」を謳い、個々の権利や意志を尊重したケアに取り組み、入室時のノックやトイレ誘導時のさりげない声かけなどプライバシーに配慮した対応に努めている。個人情報保護を遵守し、守秘義務に関する誓約を交わし、記録物は事務所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや考えをしっかりと傾聴し、決定が出来るようにわかりやすく説明を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気分等しっかりと把握して、本人と話し合いながら、その日の過ごし方を考えて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や、誕生日等におしゃれ(化粧等)をしたり、美容院に出かけたり、常に家族の協力を得ながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握している。希望される料理は即取り入れたり、明日葉農園に収穫にいたり、料理の下ごしらえを一緒にする事で食への楽しみを持ってもらっている。	入居者と共に考えた献立は、一緒に食材の買出しに出かけたり配達などを利用し、時には明日葉農園で育てた野菜が食卓に上り、作り・収穫・食する喜びも楽しんでいる。入居者は下ごしらえや食器拭きの手伝いなどできる事を行い、季節の頂き物を利用した干し柿や柚子のマーマレードなどを一緒に作っている。職員も入居者の間に入り、介助をしたり食の進み具合を見守りながら一緒に食事を摂り、検食簿に感想を記入している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事形態を把握している。好き嫌いや、アレルギーもある方には代替も行っている。また、水分摂取が十分に摂れるような配慮も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフ全員が歯科衛生士より指導を受けており、毎食後の歯磨きの介助や異常発見等に努めている。また、歯科医師の往診もあり、相談をしたり、指導を受けたりして、美味しく食べて頂く様に支援している。食前に口腔体操を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、トイレでの排泄や自立支援に向けた支援を行っている。(排泄パターンに合わせたパットを使用する)	排泄チェックでパターンを把握し、時間やしぐさを見てトイレに誘導している。又、パットの大小で昼夜の使い分けを行い、日中は小さなパットをトイレ横に準備している。職員の気づきで排便把握の意識付けの為に対策を行い、記録を分かりやすく改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中に食物繊維の多い食材を使ったり、水分を多く提供したり、ヨーグルトやバナナから芋等をおやつに提供したりして、自然排便への支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後から行い、本人の気持ちや希望に合わせてゆっくりと入って頂いている。また、気分が乗れない時などは、気持ちが動かされた時に入って頂いている。	大きめの浴槽でゆっくり寛げる入浴に努め、1対1で職員との会話を楽しみながらの支援である。希望に応じ冬場は週2～3回の頻度で支援しているが汚染時などはその都度対応し、フットバスや足のオイルマッサージなどを行い安眠に繋げている。訪問当日は冬至の柚子が差し入れられ、良い香りを放っていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	地中の熱を利用している為に、四季の温度や湿度の変化が余りなく、本人が安心して気持ち良く休まれるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の内容をスタッフ全員が把握、処方の変更や臨時薬等変更があった場合は、健康管理簿に記載し、確実に申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から趣味や趣向を聞き、その方に合った能力に応じた役割をお願いしている。また、楽しみごとを作り、生活に生きがいを持たれる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添って、買い物や地域に出かけたりして外出の機会を増やしている。また、家族やボランティアの協力を得て、四季折々のドライブや花見等に出かけている	体調や希望に合わせ、スーパーや地産地消の店への買い物や、地域のサロンなどに出かけている。又、季節の花見や観音様参り、サーカス見物などへ法人の車(運転手も)や家族・ボランティアの協力で車椅子の方も一緒に出かけるなど外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い銭程度で数人の方より預かっている。買い物や外出の時にスタッフと一緒に支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望で何時でも電話を掛ける事ができ、代理でも行っている。また、家族には毎月手紙を出したり、代筆して自由にやりとりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした時間を過ごして頂ける様に、季節の花を飾ったり、室内には音楽を流したりして、居心地の良い雰囲気作りに心がけている。	明日葉が植えられた玄関先を入ると、木の温かみのあるリビングからは豊かな自然が眺められ、寛げるソファやマッサージチェアを置き、飾り付けや花など季節感に溢れている。清掃が行届いたホーム内は全館地熱システムが施され年間を通し自然空調と換気で快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや椅子に腰掛けて、気の合った利用者同士で過ごされたり、一人で過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の思いの物を置いたり、花や写真等を飾り、落ち着いて居心地良く過ごす工夫をしている。また、精神面において、どうしても安全性を考えて置けない場合は家族と相談をしている。	ベッドや整理ダンス・洗面台が備え付けられた居室に鏡台や冷蔵庫・鉢植えの植物などが持ち込まれ、家族が持って来た花を活けたり、入居者によっては物を置かなかったりと個々に応じ、本人自らモップがけを行い、自分の部屋として使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口に本人と解る様にスタッフ手作りの名札を掛けている。また、トイレや風呂場などにも解り易く表示している。廊下やホール等には障害物等を置かずに安全を図っている。		